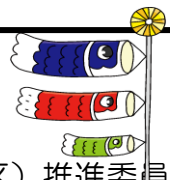


# 小山市小中一貫校(乙女中学区)推進委員会会報



平成30年5月 第7号

小中一貫校(乙女中学区)推進委員会

## ●乙女中学区小中一貫校推進委員会について



乙女中学区については、これまでの「小山市小中一貫教育及び小中一貫校推進協議会」や「小山市学校適正配置等検討懇話会」において、「乙女小と乙女中は近接し、小中一貫校の推進に適している」ことや、「下生井小、網戸小は児童数の減少が著しく、市費教職員の配置により複式学級を解消していることから、乙女小、下生井小、網戸小は、校地を乙女小として統合することが望ましい」という提言がなされています。

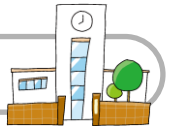
現在、提言を受け、自治会、保護者、学校評議員等の皆様を委員とした小中一貫校(乙女中学区)推進委員会が発足し、本学区における今後の学校のあり方を協議しています。この会報は、当委員会の協議内容を、保護者や地域の皆様に広く知っていただくためのものです。

## ●第11回推進委員会の結果概要



11回目の会議が、3月27日(火)に間々田市民交流センターしらさぎ館で開催されました。今回は乙女小学校施設の健全度の評価結果をお示しし、施設の課題を確認した後、乙女中学区で推進されてきた小中一貫教育の成果が発表されました。

## ●乙女小学校施設の健全度の評価結果



学校施設の評価にあたっては、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書(平成29年3月)」を参考にしながら実施しました。

校舎、屋内運動場について、次の5つの部位(※)について評価を行いました。

※【屋根・屋上】、【外壁】、【内部仕上げ】、【電気設備】、【機械設備】

評価基準は、A『概ね良好』、B『部分的に劣化』、C『広範囲に劣化』、D『早急に対応する必要あり』の4段階です。

結果、校舎、屋内運動場ともに、電気設備はB評価となった一方で、他の4つの部位については、C評価となりました。

このことから、乙女小学校施設は、早急に対応する必要はないものの、今後より良い学習・生活環境を確保するために、計画的に施設整備を行っていく必要があると評価されました。

他方、地盤・プール・外構についても、地盤沈下の影響が大きいため、上記の計画的な施設整備に併せて、補修を行う必要があると評価されました。

長期的な視点で見た場合、既に相当の建築年数が経過しており、大規模修繕を行うことの効果についても慎重に考慮し、事業コストやスケジュール、小中一貫教育の効率性などを総合的に勘案して、施設整備方針を検討していくことが求められるとまとめられました。

## ●乙女中学区小中一貫教育の現状と今後の在り方について



乙女中学区は、目指す児童生徒像として『聡く、優しく、健やかな、児童生徒』を掲げ、3小学校と中学校の4校が組織的に連携して小中一貫教育をすすめてまいりました。

平成29年度の成果としましては、新規に取り組んだものとして、『算数への“乗り入れ”授業』が挙げられます。中学校の数学科教諭が3小学校の算数の授業に入り、中学校教諭の専門性を生かした授業を展開しました。小学生の発達段階の把握もしていくことで、学力の向上を目指します。次に、乙女中学校の合唱コンクールに6年生の参加が挙げられます。心をひとつにして歌い上げる先輩の姿を目の当たりにするとともに、「翼をください」を小・中学生が合同で歌う大合唱の体験をして、中学校へのあこがれを持ったようでした。こちら、中学校の音楽科教諭が3小学校へ指導に赴き、素晴らしい大合唱へと繋がりました。

課題として、①算数乗り入れ授業に中学校教諭の専門的な指導力をより生かすこと、②3小学校の学力調査の傾向をつかみ、中学校の学力向上を目指すこと、③小中一貫教育の実施にあたっての学校間の距離(交通手段や予算の確保)、④教員の負担感の軽減、が挙げられました。

【推進委員会で出された主な質問や意見（一部要約・抜粋）】

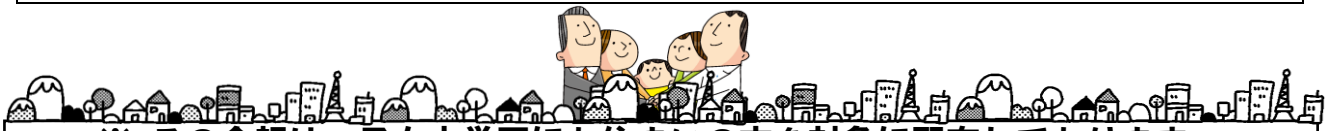
（質問）

- ①Q. 小山市では、小山市役所庁舎を建て替えることから、財政的に余裕がなく、乙女小を建て替えるのは難しいのではないかと。
- A. 平成29年3月に文部科学省から各自治体に「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」が配付されました。大規模修繕によって長寿命化を図り、長期的な維持管理に係るコストの縮減及び予算の平準化を図るものです。小山市でも、平成30年度より長寿命化計画を立てる予定です。一般的には、新築に比べて6～8割の費用で済むと言われていますが、建築業者に調査を依頼し、大規模修繕の規模を確認する必要があります。小山市は、城南地区新設小学校の建設、小山市役所庁舎の建設の大規模事業によってお金が掛かっており、庁内の財政部門と調整しながら検討を進めたいと思っております。
- ②Q. 乙女小は、網戸小や下生井小と統合したとしても、開校当時より児童数が減っており、教室が余っているため、今の乙女小学校全体の大規模改修をするよりも、乙女小の敷地内で建て替えとした方が、規模を縮小しコストを減らせるのではないかと。
- A. 網戸小、下生井小と統合したとしても、乙女小は教室が余りますので、施設を縮小し、建設コストを下げるという意味でも検討していきたいと思っております。
- ③Q. 新築の場合、何年後を目指すのか。概ねのスケジュールを教えてください。
- A. 市庁舎の建設という大規模プロジェクトが動き出したことから、他の事業についても進度調整しているところです。そのため、乙女小についても、大規模修繕か、乙女中敷地内への新設かに関わらず、かなりの費用が掛かることから、早くても5～6年先になるのではないかと考えられます。
- ④Q. 小中一貫教育は、施設一体型の方が効果が得られると以前説明があったと記憶しているが、コストだけでなく、小中一貫教育のメリットなども含めて施設の形を議論すべきだと思う。
- A. 今後、乙女中学区や小山市で推進する小中一貫教育や、小中一貫教育と施設のあり方について、皆様に情報提供しながら議論を進めていければと思っております。
- ⑤Q. 小中一貫校として新設校を建てることはできるのか。
- A. 大規模修繕をしても、20～30年後に建て替えることを考えれば、長期的には新設の方が費用が安くなる可能性もあります。ただし、大規模修繕に掛かる費用は調査しなければわからないので、現段階ではお答えすることができません。
- ⑥Q. 大規模修繕は、授業と並行してできるのか。また、何年掛かるのか。
- A. 大規模修繕は、一気に行うのではなく、効率を考えながら、分割して行うこともできます。仮校舎を建てる方法もあり、工事期間は、一般的には1年～1年半程度です。
- ⑦Q. 少人数学級だと、どのようなメリット・デメリットがあるのか。
- A. 小規模校では、横の連携は少ないが、縦の連携は充実しており、高学年の児童が低学年の児童に親切に教える、低学年の児童が高学年の児童に憧れる、また活躍の場が多く、自己肯定感を得られるなどのメリットがあります。小規模校で足りないところは、3校が連携することで補っています。1、2年が合同で体育の授業を行うなど、人間関係を構築できるように工夫しています。

（意見）

大規模修繕か、新設かだけでなく、小・中学校間の距離や移動時間、ランニングコスト、小中一貫教育の効果などを含め、総合的な議論をしてほしい。

小規模校は、人と関わる機会が少ない一方で、一人一人を大切にしている。網戸小、下生井小の児童が乙女小に行くことになると、なかなか馴染めず、疎外感を感じるという弊害がある。その課題を踏まえた上で、乙女小の大規模修繕や、乙女中の敷地内への新設等を検討してほしい。



※ この会報は、乙女中学区にお住まいの方を対象に配布しております。

※配布は自治会単位のため、乙女中学区外の方へ届く場合がありますがご了承ください。